

小・中学校の適正規模に基づく学校再編に関する地域懇談会 記録

奥州市立小中学校適正規模等検討委員会

地区名	江 刺 東 地 区		
日 時	平成 29 年 11 月 15 日 (水) 18 : 30 ~ 20 : 00	会 場	玉里地区センター
出席者	事 務 局	教育長、教育部長、学校教育課長	
	検討委員	副委員長 他 4 人	
	地域住民	4 2 人	
◆主な質疑内容			
(質問)	(回答)		
○データから見ても江刺東中学校区の小学校には全部複式がある。危機的な状況ではないか。検討委員会や地域懇談会をもっと多くもち、スピーディーに対応していくべきではないか。	○他地区でもスピード感を持って進めるべきというご意見を頂いた。検討委員会で揉んで、場合によっては、適正規模等の考え方を H31 年度末ではなく、もっと早く地域に返すこともあり得る。		
○小学校は 6 年、中学校は 3 年で見たとき、中学校は短い。先に中学校を統合するという考えは無いのか。	○一つの考えとして、あり得る。地域の方々の意見を元に進めていきたい。		
○人数の多い学校の問題を聞かせてほしい。やりたくてもやれない選手が出たり、運動会を見ていると誰がどこにいるかもわからなかったりするような状態。それについて教育委員会ではどう考えているのか。	○学校では様々な行事の中で子どもたちの活躍の場を作っている。時間的な制約がある中、各学校で工夫している。規模が大きいところは大きいところなりの課題があると考えている。		
◆主な意見・要望の内容			
○専門の免許を持つ先生がいらない、やりたい部活動ができないなどが生じないように、適正規模による再編計画は早急に進めてほしい。			
○若い人たちの考えに沿った再編をやっていくべきである祖父母と父母の考えは格差がある。学校をなくして地域は発展しないという考え方はある。しかし、今学校がある状況で発展しているかといえばそうではない。そういう考えから見ると、若い父母の意見をもっと吸い上げるべきである。			
○アンケート結果から見ても 7 割近い保護者が統合に肯定的となっている。どの家庭でも危機感をもっている。若い人は岩谷堂に出て行っている。逆に、山間部に来る人はあまりいない。H31,32 では遅いような気がする。			